

平成 16 年度「特色ある大学教育支援プログラム」

採択取組の概要および採択理由

| | | | |
|--|----------------------|------|---------|
| 大学・短期大学名 | 名城大学 | 整理番号 | 1-2-112 |
| 応募テーマ | 主として教育課程の工夫改善に関するテーマ | | |
| 取組名称 | 医学教育との連携による臨床薬剤師教育 | | |
| 申請単位 | 大学院研究科単位 | | |
| 申請担当者 | 松葉 和久 | | |
| <p>(取組の概要)</p> <p>名城大学は、1975 年以来、1 年コースの薬学専攻科を開設し、専門的な知識・技能を有する臨床薬剤師教育の理念を掲げて他大学に先駆けて実施してきた。この実学専門教育をさらに充実させるために、2003 年、薬学専攻科を修士課程「臨床薬学専攻臨床技能コース」へと改組し、近郊の藤田保健衛生大学医学部と協定を締結し、「医・薬連携大学院」を開設した。これからの社会に求められる臨床薬剤師の育成には、薬学部教員に加え、診療にかかわる医学部教員、病院薬剤師、及び看護師の医療チームの協力が不可欠である。名城大学では、この連携によって、医療施設を持たない私立薬科大学・薬学部では初めて、医療施設を研修の場とする高度な臨床薬剤師教育が可能となった。藤田保健衛生大学医学部に設置された「名城大学サテライトセミナー室」では、薬学部教員が医療現場教育へ積極的に参加する機会を与えられ、また院生による症例検討や種々のセミナーの開催を通して、医・薬の交流が深められている。</p> | | | |
| <p>(採択理由)</p> <p>この取組は、名城大学薬学部が 28 年前に学部教育のあとに臨床薬剤師養成を目的とする 1 年の薬学専攻科をつくり、この経験をもとに、昨年からは近隣の医学部附属病院をもつ大学と医・薬連合大学院を開設して、2 年間の大学院修士課程・臨床薬学専攻臨床技能コースを開始したもので、日本の薬学教育を行う大学が附属の大病院をもたないものが多いなかで、臨床薬学の実践的臨床能力を具体的に身につける教育モデルを提供するものです。とくに、PBL・臨床コミュニケーション技能教育・OSCE 等、今日医学教育で取り入れられている教育方法を取り入れていること、医師・看護師による症例検討会への参加、病院にサテライトセミナー室をもって教員による指導、さらに米国サンフォード大学教員による研修なども行っていることにも特色があります。日本の薬学教育が、臨床技能教育のために 6 年制へ移行としようとする今日、本取組は他大学にも参考になります。現在、受け入れ学生数が少ないが、6 年制をみこした体制への具体化も望まれます。</p> | | | |